

令和4年度 助産師資質向上・確保対策に関する実態調査結果

I 概要

- 1 調査目的：産科・産婦人科を標榜する県内の病院における助産師の活動状況や院内助産・助産師外来、保健指導等の実施状況を把握し、事業や施策内容に反映する。
- 2 調査対象：令和4年4月1日時点で産科・産婦人科を標榜する病院（55病院）
- 3 調査時期：令和5年4月1日～令和5年4月21日
- 4 調査方法：メールで調査依頼し、調査様式（Excelファイル）をメールで回収
- 5 回答数：55病院（回収率100%）
- 6 回答者：看護職（部長、師長等）49病院、事務職6病院

II 結果

1. 基本情報

（1）産科関連取扱状況について

産科・産婦人科を標榜する病院は、統合により1病院減少し、分娩取扱病院は37病院と令和3年度39病院から2病院減少した。

	全数	分娩取扱有	妊婦健診等	婦人科のみ	産科・産婦人科 両方休止	助産業務有
R4	55	37	8	7	3	43
R3	56	39	5	8	4	—

（2）分娩件数や病棟や病床数について

分娩件数は16,300件と令和3年度16,575件から275件減少したが、帝王切開件数は4,696件と令和3年度4,650件から46件増加している。

	分娩件数	帝王切開件数	産科病棟	混合病棟	うち産科病床
R4	16,300	4,696	429	1,012	408
R3	16,575	4,650	535	1,093	375

【参考】出生数あたりの帝王切開率 R3：12.7%（出生数36,581件 帝王切開4,650件）
R2：12.2%（出生数36,953件 帝王切開4,516件）

2. 貴院の産科・産婦人科の状況について（産休・育休除く）

（1）職員数について

助産師の実人員は、病院全体では1,059人と令和3年度1,095人から36人減少し、産科病棟では748人と令和3年度802人から54人減少している。常勤換算は、病院全体1009.79人、産科病棟728.82人であり、昨年度並となっている。

	医師		助産師（病院全体）		助産師（再掲：産科病棟）	
	実人員	常勤換算	実人員	常勤換算	実人員	常勤換算
R4	379	296.91	1,059	1009.79	748	728.82
R3	328	275.90	1,095	1008.50	802	726.80

（2）産科病棟以外の配属実人数

外来(産婦人科)	一般外来	内科系病棟	NICU・GCU	小児科系病棟	
75	66	42	41	24	
外科系病棟・手術室・ICU	管理部門(看護部)	地域連携室・健康管理室	自由項目(混合病棟)	自由項目(看護学校)	自由項目(その他)
23	17	8	50	3	23

【参考】令和4年度 看護職員の確保状況等に関する実態調査結果
 (産科・産婦人科を標榜する55病院中51病院回答)

○助産師の採用・退職状況

	常勤	非常勤	合計
令和4年4月1日在籍看護職員数	938	84	1,022
令和5年3月31日在籍看護職員数	920	84	1,004
総退職者数	86	17	103

【助産師の退職率】

総退職率	10.2%
常勤	9.3%
非常勤	20.2%
1年未満退職率	10.4%
新卒	4.5%
既卒	24.1%

○1年未満の助産師の採用・退職状況

	新卒		既卒		合計	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
採用者数	67	0	19	10	86	10
退職者数	3	0	4	3	7	3

以下、助産師業務を行っている病院のみ回答 (N=43)

3. 院内助産・助産師外来等について

(1) 院内助産・助産師外来の設置状況

助産師外来の開設数は13病院と令和3年度16病院から3病院減少し、年間件数は4,914件、従事者数は100人であった。

院内助産・助産師外来を両方設置する病院は1病院減少したが、新たに1病院で院内助産を設置したため、開設数は令和3年度と変わらず7病院である。年間件数は、院内助産157件、助産師外来1,668件で、従事者数は、院内助産63人、助産師外来65人であった。

	助産師外来			院内助産・助産師外来 (両方設置)				
	開設数	年間件数	従事者数	開設数	院内助産		助産師外来	
				年間件数	従事者数	年間件数	従事者数	
R4	13	4,914	100	7	157	63	1,668	65
R3	16	5,877	123	7	275	73	2,295	65

(2) 保健指導等の実施状況

	保健指導			未設置
	定期	不定期	回数	
R4	17	12	5	6
R3	17	-	-	4

(3) 今後の実施予定

	院内助産 (N=30)	助産師外来 (N=22)	保健指導 (N=5)
あり	5	3	2
なし	25	19	3

4. 助産師の確保・定着状況について

(1) 助産師の確保状況

確保できている	不足している	不足人数
28	15	50

「不足している」と回答した病院の内訳

周産期母子医療センター・地域周産期病院	10
その他	5

(2) 助産実践能力習熟段階レベルⅢ認証制度 (GLoCmip)

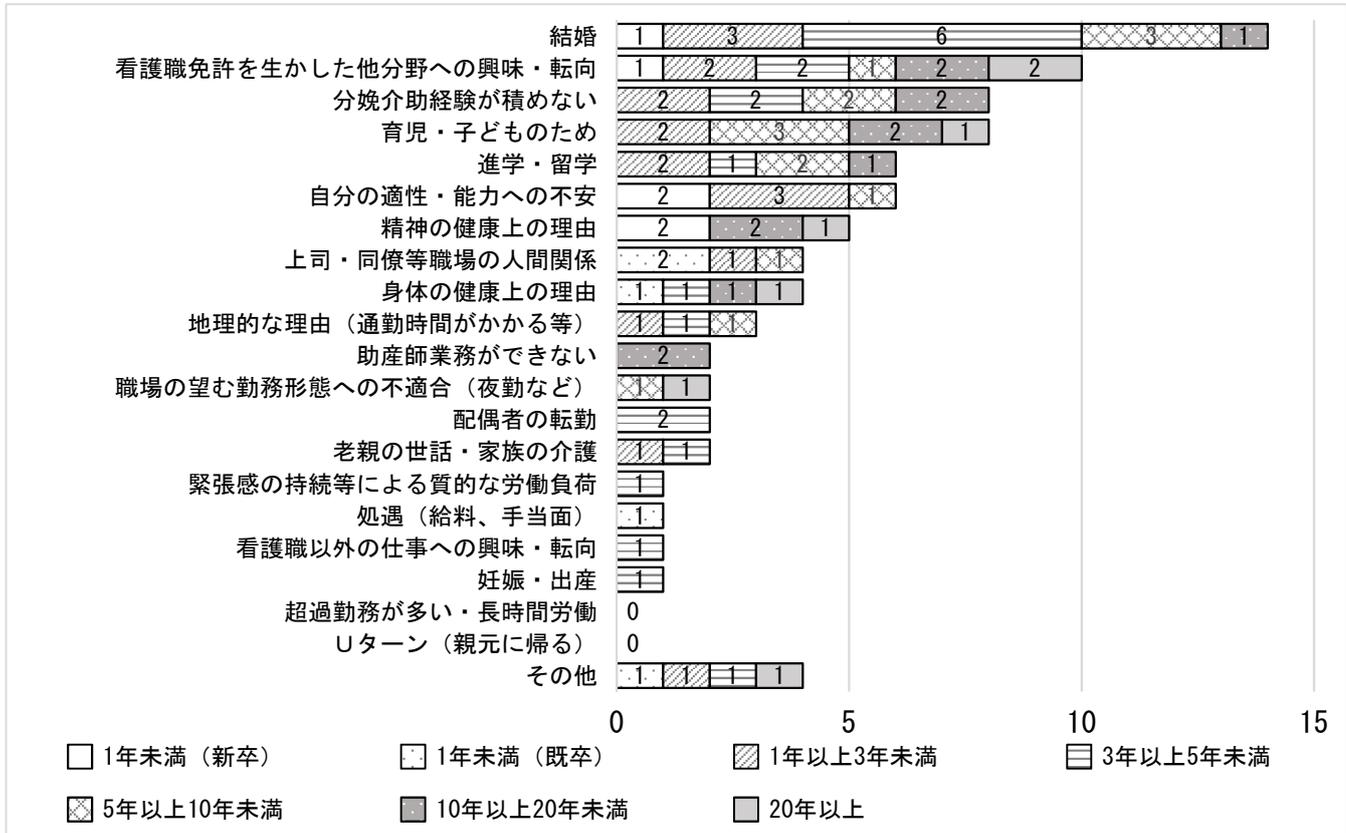
	取得者	新規取得者	未更新者
R4	267	21	23
R3	269	27	55

【不足の要因 (自由記載内容)】

- ・産休・育休・育児短時間勤務等による人員不足(7件)
- ・新人指導に時間が必要(4件)
- ・応募者が少ない(4件)
- ・分娩休止に伴う退職(2件)
- ・分娩介助のスキル維持・向上が困難(2件)
- ・院内助産開設を目指す人員不足
- ・年齢層が高く夜勤者の減少
- ・モチベーションを保てず離職(混合病棟等)
- ・学生実習指導に時間を要する
- ・産後ケア等の担当助産師が必要

(3) 経験年齢別の退職理由（複数回答可）

助産師の退職理由として多かった項目は、「結婚（14件）」、「看護職免許を生かした他分野への興味・転向（10件）」、「分娩介助経験が積めない（8件）」、「育児・子どものため（8件）」となっている。1年未満の退職理由は、新卒では、「自分の適正・能力への不安（2件）」「精神の健康上の理由（2件）」、既卒では、「上司・同僚等職場の人間関係（2件）」等であった。



5. 助産師の活躍促進について

(1) 人材育成の取り組みについて（3項目まで選択可）

項目	回答数
合併症やハイリスク妊婦への対応に関する研修企画や参加	26
助産に関する研修参加	23
産後ケアや出前授業等、母子保健分野での活躍	19
助産師ラダーを活用した人材育成	17
助産領域以外への研修参加	10
NICU、GCU等へのローテーション	9
産科がある系列病院への異動や出向、研修	4
正常分娩介助経験のため出向	2
その他	5

【その他の内容】

- ・ 新生児看護に関する研修企画や参加
- ・ 個別の乳房マッサージや保健指導に取り組む
- ・ 地域の周産期施設と行政が集まるネットワーク会議への参加
- ・ 認定看護管理者教育課程への受講
- ・ 市役所や看護学校に出向

(2) 産後ケアの実施について

産後ケアは26病院で実施し、宿泊型(21病院)、デイサービス型(14病院)、アウトリーチ型(6病院)、産婦健康診査(13病院)を実施している。今後実施予定がある病院は7病院あり、宿泊型(5病院)、デイサービス型(4病院)、産婦健康診査(5病院)を予定している。

① 実施状況

実施している	今後予定がある	実施予定はない
26	7	10

② 実施事業内容(N=26、複数回答可)

宿泊型	デイサービス型	アウトリーチ型	産婦健康診査
21	14	6	13

③ 今後予定する事業内容(N=7、複数回答可)

宿泊型	デイサービス型	アウトリーチ型	産婦健康診査
5	4	0	5

6. 自由記載項目

55病院のうち25病院が記載した意見内容を分類したところ、「現状8項目」「課題3項目」「助産師の資質向上や活躍推進に必要な取り組み13項目」「地域に必要なおける取り組み21項目」の計45項目あり、表のとおり、カテゴリー・サブカテゴリーにまとめた。

(1) 現状

※複数記載があった内容は、()内に件数を記載

カテゴリー	サブカテゴリー
ハイリスク妊産褥婦の増加による影響 (4)	様々なハイリスクを抱えた妊産褥婦が増加
	合併症を持つ妊産婦に他職種と連携してケアを実践する
	特定妊婦が増加し、保健師との連携が不可欠
	帝王切開率が高い
助産師の活躍 (2)	病院外の地域等で活躍するフリーランス助産師はスキルが高い
	助産師が主となって産後フォロー健診を実施し、診察料が算定できるようになり、病院経営に貢献
その他 (2)	コロナ禍での母親学級の休止により指導関係のスキルに不安がある
	他自治体から里帰り出産する際、産後ケアを利用できない場合がある

(2) 課題

カテゴリー	サブカテゴリー
正常分娩の経験を増やす	正常分娩の経験を増やすことが課題
医師・助産師の年齢層が高い	産科医師、助産師の年齢層が高いことが課題
地域との連携	地域との連携が重要であり、地域差なく連携することが課題

(3) 助産師の資質向上や活躍推進に必要な取り組み

カテゴリー	サブカテゴリー
院内の助産師のスキルアップ (6)	助産師外来や産後ケアなど、保健指導を充実し、患者のニーズにそって助産師が主体的に対応できる体制づくり
	分娩件数は減少傾向だが、助産師がスキルアップできる環境整備が必要
	自院の助産師に専門性を認知してもらうためのPR活動
	自院の助産ケアを充実し、院外でも活躍できるようにする
	助産師クリニカルラダーに基づいた教育システムの構築
	研修費用の補助
学生実習に関する 取り組み (3)	分娩施設の集約化により、学生や新人助産師が目標分娩件数に到達できない
	学生実習に必要な分娩件数の見直しが必要
	学生時からのメンタルヘルス強化
助産師の出向システム等 の構築 (3)	助産師の確保、助産師へのタスクシフトに向け、正常妊産婦管理における出向環境づくり
	分娩の多い施設と相互に研修できるシステムを期待
	助産師が集約される都市部と山間部の病院を兼務できるとよい
病院間で連携しやすい システム構築や研修企画	病院間で連携しやすいシステム構築や研修企画を希望

(4) 地域における取り組み

カテゴリー	サブカテゴリー
妊娠期から産後まで継続 したケアの実施 (7)	ハイスク妊婦や社会的背景に問題がある妊婦に対し、分娩施設や地域と連携し、妊娠期から産後まで継続したケアに取り組んでいる (2)
	妊娠期から地域と連携し、早期から産後フォロー体制を整える (2)
	妊娠期から産後まで地域とのつながりを深めるための訪問事業の実施 地域での産後うつ予防対策に取り組む
	広域的な制度として子育て期のママのサポートを希望
行政、保健師との連携 (5)	市と情報共有しながら連携して支援 (3)
	助産師と保健師が対面で情報共有できるよう検討
	保健師とともにアウトリーチを拡大する
産後ケア事業に関する 取り組み (4)	地域の分娩取扱施設と連携し、産後ケア事業に協力している
	退院後継続して産後ケアを自院で実施できるようにする
	産後ケア事業の手続きや運用面の進め方を教えてほしい
	自院で産後ケア(宿泊型)の運用が難しく地域で活用できる施設を希望
出張講義の実施 (3)	出張講義など地域との連携に努める (2)
	中学校の授業講師、助産系の大学講師などとして出務
地域で活躍する助産師 との連携 (2)	開業助産師との交流や意見交換、勉強会などの実施
	圏域内で役割を明確化し、フリーランス助産師が産後ケア等の母子保健事業で活躍できる場が必要